

公 表

第4回若年者ものづくり競技大会「建築大工」職種 競技課題

支給された材料を用い、次の仕様、課題図及び注意事項に従って、木ごしらえ、墨付け及び加工組立てを行いなさい。

1. 競技時間

標準時間 4時間15分

打切り時間 4時間30分

2. 仕様

(1) 木ごしらえ

イ 部材の仕上がり寸法は、次のとおりとすること。

部材名	仕上がり寸法 (mm)
桁	60×70
むな桁、はり	60×70
つか、飼木（ねこ）	60×60
たる木	30×36
火打ち	30×60

ロ かなな仕上げは、中しこ仕上げとすること。

ただし、飼木（ねこ）材は、ひとかなな仕上げでよい。

(2) 墨付け

イ 平勾配は、4／10の勾配とすること。

ロ 加工組立てに必要な墨は、すべてつけること。

ハ 桁及びむな桁の峠は、材の上端とすること。

ニ つかのほぞ寸法は、厚さ20mm、幅60mm、長さ30mmとする。

ホ はりのほぞ寸法は、厚さ20mm、幅50mm、長さ25mmとする。

ヘ 桁及びむな桁には、上端及び下端の芯墨、たる木の位置墨（口脇墨）を入れるとともに、たる木の芯墨を上端及び側面に入れること。

ト つかには、4面に芯墨及び峠墨を入れること。

チ はりには、上端及び下端の芯墨を入れること。

リ たる木には、上端及び下端に芯墨を入れるとともに、桁とむな桁の芯を上端及び側面に入れること。

ヌ たる木の桁側木口は勾配に直角に、むな桁側木口は立ち水に切ること。

ル 火打ちには、上端に芯墨を入れるとともに、火打ちの芯墨を延長した線を桁及びはり上端に入れること。

ヲ はりと桁との取合いは、大入れありとし、寸法は課題図の通りとすること。

(3) 加工組立て

- イ 加工組立ては、課題図の通りとし、順序は、任意とする。
- ロ つかと飼木（ねこ）は、1本ものとして支給しているので、墨付け及びほぞ穴加工等を行った後、切り離して使用すること。
- ハ はりとむな桁は、1本ものとして支給しているので、墨付け及びほぞ穴加工等を行った後、切り離して使用すること。
- ニ 取合い部を除く全ての木口はかなな仕上げ、面取りとすること。
- ホ 飼木（ねこ）の桁への止め付けは、飼木（ねこ）木口より桁へ、それぞれ2本のくぎで固定すること。（課題図の通り）

3. 作品の提出

- (1) たる木及び火打ちは、課題図に示す位置にくぎ止めし、組上がった状態で提出すること。
- (2) 組立てが完了した選手は、競技委員に申し出て席番号を記入した荷札を作品に付け、指示する場所に提出すること。
- (3) 提出した作品はいかなる理由があっても、選手は一切手を触れることはできない。提出後は作業場所の清掃を行い、委員の指示に従ってすみやかに退場すること。

4. 注意事項

- (1) 支給された材料の寸法及び数量等が「支給材料」に示すとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の交換は行わない。
- (4) 指定した工具以外のものは使用しないこと。
- (5) 競技中は、工具等の貸し借りを禁止する。
- (6) 競技時の服装等は、作業に適したものであること。
- (7) 作業所は整理整頓し、ケガ等に注意して安全な作業を心掛けること。
- (8) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点する。
- (9) 作品が完成した時は、競技委員に申し出ること。

5. 支給材料

支給材料の材種は、「カナダツガ」上小節材程度の材料を予定しているが、当日材種等が変更されることもある。

部材名	寸法又は規格 (mm)	数量 (本)	備考
桁	550×61×71	1	
むな桁、はり	650×61×71	1	切り使いとする
つか、飼木（ねこ）	500×61×61	1	切り使いとする
たる木	700×31×37	1	
火打ち	500×31×61	1	
くぎ	50 つか、はり、飼木（ねこ）用	8	予備2本を含む
	65 たる木、火打ち用	6	予備2本を含む

6. 使用してもよい工具類

さしがね、まきがね（スコヤ）、自由がね、墨さし、墨つぼ、かんな、のみ、のこぎり、きり、げんのう、かじや（パール）、けびき、くぎしめ、電卓、鉛筆

※数量は自由とする

7. 会場に準備されているもの

作業台 105×105×600 1本、作業床（合板）910×1820 厚さ 12mm 1枚

削り台（1200×105×105程度）、削り台止め（900×45×18程度）

競技者の作業エリアの床面積は、選手1名当たり 2m×2m とする。